

平成30年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◎「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両道」を実践できる生徒を育成する。</p> <p>◎「当たり前ができる」を基本とする生徒指導を通じて、生徒の高い規範意識を育成する。</p> <p>◎学校生活のあらゆる場面で、粘り強い自己の目標に向き合う姿勢を養うことで、生徒の人的成長を促す。</p>	<p>①コースごとの系統的で特色ある学びを充実させ、すべての生徒が自己の個性と能力を最大限に伸ばすことができるよう、平成30年度入学生の教育課程を一新した。グローバルネットワーク京都事業は、組織的な取組により交流会で4年連続入賞を果たすなど大きな成果を上げた。</p> <p>②自己管理能力を育成し、家庭での学習習慣を確立させるために導入したN J手帳は、一定の成果があるものの家庭学習習慣の形成につなげていく必要がある。主体的な学びを引き出す授業への転換については、A L推進プロジェクトを中心に少しずつではあるが授業改善が進んでいる。また、今年度も3年生の進路検討会を実施し、個に応じた指導方針を共有し実践することにより、進路実績の向上につながった。</p> <p>③本校で学ぶ意欲を持った生徒の入学を促すため、在校生を活用した「西城陽高校の良さ」を発信し、ホームページをスマートフォン対応にリニューアルして利便性を高めるなど積極的な情報発信を行った。また塾や中学校教員対象の説明会の開催、全校体制での中学校訪問など新たな広報戦略を行い、前・中期選抜とも前年度より志願者が増加した。今後も本校の魅力を高め、本校に対する信頼を高める。</p> <p>④生徒の登下校時の安全確保のために、携帯電話の校内持込を許可したところ、授業中の着信等指導件数が増加したが、違反を繰り返す生徒はおらず指導は徹底できた。自転車の交通事故件数が減少しておらず、交通マナーを含めた指導の強化が必要である。</p> <p>⑤校内外の環境美化については、本校が目指す美しい爽やかな学習環境の維持することができてはいるが、ゴミの分別指導を徹底する。</p> <p>⑥部活動は、重点種目において水泳24名と陸上競技39名の合計延べ63名が全国大会に出場した。また合唱部の全国大会金賞、写真部の全国高総文大会への出場など文化系の部も活躍した。今後も、ワンランク上の目標を定めチャンピオンスポーツを目指すとともに、週一回以上の休養日を設定して学習と部活動を両立できる生徒を育成する。</p>	<p>①ICT教育の環境整備を進め、アクティブラーニングを取り入れた授業改善を全教職員で取り組むことで、生徒の主体的な学習態度を引き出して授業の活性化を促進し、学力向上につなげるとともに、早期の進路目標を設定させる進路指導を行い、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>②部活動ごとの目標を考慮しながら休養日の設定を含めた活動時間を整理するとともに、N J手帳を有効に活用させることで家庭学習時間を確保させるなど生徒の自己管理能力を育成する。</p> <p>③進路や部活動の実績、充実した学校行事、グローバルネットワーク京都事業や主権者教育などの特色ある取組の活用、環境美化の行き届いた校内環境などの本校の魅力を中学生やその保護者に情報提供し、志願者が増加するよう、中学生が目指したいと思える学校づくりを行う。</p> <p>④京都府教職員の働き方改革実行計画に基づいた取組を推進する。教職員が、専門性を高めるための研修の時間や生徒と向き合うための時間を十分確保し、日々の生活の質や人生を豊かにすることで自らの人間性を高め、生徒に対して効果的な教育活動が行えるようにする。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
組織・運営	各コースの特色化の推進	◆GSコースはグローバルネットワーク京都事業及び海外研修、SSコースは本校独自のカリキュラムとスポーツ総合専攻設置校との連携をそれぞれの軸に、さらに教育活動を充実させる。CSコースに関して、コースの特色を生かした取組を工夫し、実践する。あわせて、新学習指導要領を視野にいたれたカリキュラムマネジメントに取り組む。	1			
	学習と部活動の両立の推進	◆部活動ごとの活動目標と活動時間のバランスに配慮し、教職員全体としての共通理解を図る。	2			
	地域と連携し、地域から信頼され愛される学校づくりの推進	◆全校生徒による地域清掃、部活動やボランティア生徒による地域行事への積極的参加、学校行事の地域への公開等によって、本校に対する地域からの理解と信頼を高める。	3			
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成	◆主体的な家庭学習の習慣を定着させるため、各教科が適切な指導を行う。また、生徒の自己管理能力を培うため、NJ手帳についての申し合わせ事項を定め、活用の定着を図る。	4			
	授業改善と教科指導力の向上	◆ICT活用及びアクティブラーニング等、研修と実践の成果を全教職員で共有し、組織的に授業改善に努め、生徒が能動的に学ぶ姿勢を引き出す。	5			
		◆授業評価アンケートなどを積極的に活用し、生徒が自ら学習に取り組んでいる実感と効力感を伴う授業の実践を目指して、日々研鑽を重ねる。	6			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	◆基本的な生活習慣の確立をめざし、生徒が主体的に校則やマナーを守り、規範意識を高めるように働きかける。とくに、携帯電話等の取扱いについては持ち込みを認めるに至るまでの学校の考えを正確に伝える指導上の工夫と継続を図る。	7			
	道徳心の育成と規範意識・人権意識の確立	◆学校生活全般を通じて周囲への心遣いや、他者を尊重する精神を培う。	8			

評価領域	重点目標	具体的方策		評価			成果と課題
				具体的方策	重点目標	評価領域	
進路指導	進路選択に対するモチベーションを高めるガイダンス機能の充実	◆早期から、進路ニュースやホームページを活用して、保護者・生徒に時宜を得た情報発信を行うとともに、進路検討会等を通して情報の共有化を図り、高大接続改革等の今般の教育改革を念頭においたきめ細やかな進路指導と教科指導を行うことによって、生徒の進路実現を支援する。	9				
	生徒一人一人のキャリア発達の支援とキャリア形成のための指導の充実	◆生徒の希望進路実現のために、個人面談・進路希望調査・生活学習実態調査・実力テスト・模擬試験等の結果を積極的に活用し、生徒の進路希望と学力実態の把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。	10				
広報活動	情報発信の充実による本校志願者の確保	◆ホームページを最大限に活用した情報発信や充実した学校公開や学校説明会の実施、中学校や塾の訪問等に全教職員で取り組むことで、本校の特色や魅力「西城陽高等学校の良さ」を中学生・保護者に伝える。	11				
健康・環境美化教育	健康・安全上の自己管理の啓蒙	◆生徒自身が健康の維持増進や安全について自己管理できるよう促す。	12				
	特別支援を必要とする生徒に対する組織的対応の推進	◆日常の生徒観察を重視し、「気になる生徒」の情報を学年部・保健部及び教科担当者で共有し、教育相談会議との連携を図りつつ、生徒の心の変化に対応して早期に援助する。	13				
	校内美化意識の確立と校内美化の維持	◆日々の清掃活動や月例大掃除とともに、ゴミの処理の指導を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作り出す意識を育む。	14				
図書館利用	読書活動の推進	◆授業や特別活動を通じて、読書活動の推進、活性化につなげる。蔵書のデータベース化を進め、生徒の図書館利用促進、図書委員会活動の活性化を図る。	15				
教育環境の整備	コースの特色化に寄与する学校設備・備品の充実	◆教職員が十分に連携を取り、各種事業の取組において効果的な予算執行を行い、質の高い教育環境づくりを目指す。	16				
	生徒の就・修学支援の充実	◆PTA配信「お知らせメール」および学校HPも活用し、各種支援制度について、保護者・生徒に対する丁寧な案内と対応を心がけ、十分な周知を図り、授業料や諸費等の徴収事務および各種奨学金事務を円滑に実施する。	17				